

学習会開催報告

子どもの未来を支える

子ども食堂・フードバンクの実践

＝ 開催目的 ＝

現在各生協では、フードドライブを通じた各地域のフードバンクに寄贈する取り組みや各地域の子ども食堂への食材等の提供などの支援の取り組みによって、いろいろな地域でフードバンクや子ども食堂との連携や協力関係が広がっています。これらの取り組みを一層広げ関係づくりを強化していくために、今後どのような連携の仕方が望ましいのかを考える機会とします。

活動団体の方のおはなし

- 日時：2019年3月27日（水）
13:00～15:05
- 会場：東京都生協連会館 3階会議室
- 参加人数：43名（スタッフ含む）

あいさつ 〈東京都生協連 秋山純専務理事〉



東京という地域の中で、私たち生協はこれからフードバンクや子ども食堂とどのように向き合っていくか真剣に考えていかななくてはならない時期にきていると思っています。都内で活動する皆さんの話をきき、考える機会にしましょう。

〈NPO法人フードバンクTAMA 芝田晴一郎さん〉



地域に貧困があることを知り衝撃を受けたことがきっかけで「子ども」をコンセプトに団体を立ち上げました。配る場所が分からず配るものもないところからスタートし、子どもに普通の美味しい食事をさせてあげたいという想いから各方面に協力をお願いに通い、それらの経験をもとに今では近隣の地域のフードバンク立ち上げ支援もこなっています。地域のニーズの変化に合わせながら子どもの貧困の克服を目指しがんばっています。生協店舗でのフードドライブは、啓蒙活動にもつながると思います。

東京都内のフードバンクの現状と地域ネットワークの必要性について

〈一般社団法人全国フードバンク推進協議会 事務局長 米山 広明さん〉

フードバンクは2000年ごろから活動が始まり都内では現在10団体あります。年々団体数が増え続ける一方で抱える課題として、

- ① 寄贈食品の確保
- ② 行政との連携
- ③ インフラ面での改善
- ④ 人材の確保
- ⑤ 運営費の確保
- ⑥ ノウハウの不足
- ⑦ 人材育成…などがあります。



ネットワークによって、寄付しやすい仕組みを作り、食品やノウハウなどのリソース（資源・資産）を共有することで地域格差を解消し、地域のフードバンク活動全体を発展させることができるよう、都内では小さな地域単位からネットワークづくりを始めていくことが必要だと考えています。都内の生協には、食品ロス削減と貧困問題解決に向けてこれからも支援をお願いします。



〈もとはち東ふれあい食堂 野田 里美さん〉

この食堂の大きな特徴は学校という開かれた場所だということです。なるべく多くの人に来てもらい、その中で何人かが「今日おいしいご飯を食べられてよかった」と思ってくれるように、誰もが来やすい学校という場所での活動を続けています。子どもも大人もゆったり過ごせる居場所になるようにと思っています。地元のお豆腐屋さんなどにも支えてもらっていることに感謝しています。今一番の悩みの種は、ひとり一人にかかる保険の費用です。

〈はちおうじ子ども食堂 早川 洋子さん〉

主に学生が運営に携わっていることが特徴のこの食堂は、子ども食堂の先駆けともいえます。不登校の子どもも来るようになり、そういった子どもにとって賑やかな場所は苦手なことが多いため、居場所作りも始めています。子ども食堂の意味は貧困だけでなく、心豊かな子どもを育てるために大切な「楽しく食べる生活」の基本なのだと考えています。



参加者の声より

- ・全国や都内のフードバンクの状況がよく分かった。また、様々な人が関わり子ども食堂が運営されていること、その関わり方を知ることができた。
- ・「普通の食品を食べさせたい」という親の気持ちにとって、安全安心な生協の食材は本当に助かっている。
- ・子ども食堂を実践されている方達の実感のこもったお話を聞いて良かった。何が課題なのかを知ることができた。
- ・いろいろな課題をもらった気がする。持続可能な形で何ができるかしっかり考えていきたいと思う。
- ・各生協との連携を大切にしたいうで持続的な懇談会を設け、そこに参加することで共に何ができるかを考えたい。
- ・ネットワークの必要性を感じた。
- ・それぞれ共通の課題を抱えながら活動していることがわかった。

